



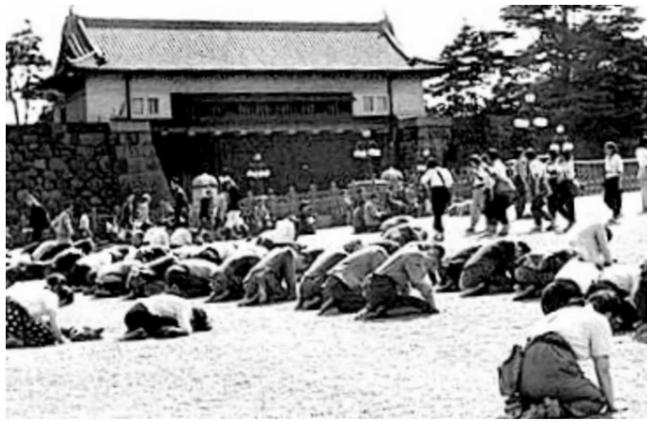
永久平和を願って 次世代に戦争体験を語り継ぎたい

秘書広報課
☎24-8801

今年、平成27年は、かつてアジアの各地に多大な不幸をもたらした太平洋戦争が昭和20年（1945年）8月15日に敗戦終結、当日から起算して今年で70周年に当たります。

その時、私は旧制中学校1年生でしたが異常で大変な事ばかりだったので、70年前を思い出して、「私の70周年の思い出」として、記載してみたいと思います。

学校は現在の観音寺一高の前身



玉音放送：天皇の肉声（玉音）を放送することをいう。特に、昭和20年8月15日、太平洋戦争の日本の降伏を、昭和天皇が国民に伝えたラジオ放送。この日を終戦の日とした。

私の戦争体験談⑥ 私の終戦

70周年の思い出

津森町 須藤 宏三さん

2年生と我々1年生だけでした。勉強は幅広く教えてくれ、敵国語と呼んでいた英語も問題なく教えてくれたので驚きました。1か月で2回ぐらいは、農家へ草刈りや麦刈りなどの動員作業に出かけていました。一方、学校には軍用船舶が無くなったのか行き場のない陸戦隊の部隊、約150人が駐屯していました。2階建ての図書館は将校たちが使い、一般の兵隊達は柔道場や剣道場で寝起きしていました。運動場は、防空壕や畑に変わり、

下で犠牲を出しながら協力してきた女子中学生で組織された「ひめゆり部隊」も解体しました。米軍の占領下となったものの島民の集団自決など、悲しい状況が続きました。7月4日、早朝、米軍機が高知市、徳島市へ空爆した後、高松市にも焼夷弾を落とし、高松市を火の海と化し、1400人近い市民が犠牲となりました。丸亀からも高松の空が、赤く染



高松空襲：昭和20年7月4日午前2時56分から午前4時42分にかけて高松市に対する米軍B29、116機による戦略爆撃。1359人が亡くなり、家屋およそ19000戸が焼失した。写真は焼き尽くされた高松駅周辺。

いる人がいます。

その後、8月15日、昭和天皇の全国民へ敗戦、終戦の玉音放送がありました。

悔しい思いは残っていましたが全国民が受け入れました。一部、若い将校が自決したなどの情報は終戦後に知り、戦時中は学校側ラジオからも学友からも何も無く、

毎日の通学と勉強に全力を出していました。

一番驚いたのは、玉音放送があった翌日、登校してみると、先輩の卒業記念で植えて成長していた青桐などが切り倒されていたこと。図書館の内外に書類などが散らばっていたこと。兵士たちが寝起きしていた道場の外も、同様な状態

であるのに兵隊たちの姿が見えず、ただ「保安」と記入した腕章をした兵士が二人いただけでした。一夜にして姿を消した兵士たちに、ただただ驚きと感心するばかりでした。9月に入り、都会に動員に出ていた上級生や予科練で軍人になっていた上級生などの全員集合日が

あり、私たちも集合したものの、上級生の背丈、服装、顔相などが総て私たちと違う、どこの「おっさんたち」が来ているのかと驚いたのが第一印象でした。以降、2学期として、この上級生と校内整備に取り組み、正常な学習に入ることができた中学一年生でした。（平成27年夏寄稿）

私の戦争体験談⑦

キラキラと輝きたかった青春時代

中津町 吉川 和子さん



松根油：松の根からとった民間飛行機などに使うための燃料。写真は、学徒動員で松の根を掘り起こす子どもたち。

若い人から話しました。「85歳の私もみなさんのように、若い時がありました。」

今から思ってもなんでも知りたい、やってみたい、とキラキラ輝いていた、と思っっています。勉強がしたくて、地理でも歴史でも国語も数学も全部頭に入る、楽しい時期やっただけです。なのに、そのころは戦争が真っ最中ですから、授業なんかそつちのけで、麦刈りに行ったり、草刈りに行ったり、飛行機に使う油が足らんからと言って、松の根を掘り起こして油を取って、



少年航空兵：旧日本陸軍で、徴兵年齢以前の者を対象にした志願制による航空兵。海軍では飛行予科練習生（予科練）があった。

戦地に送ることまでさせられていました。子どもなりに、『オー』そんなことまでするのか』と思っながらやっっていました。

終戦になったときに、大事な青春時代、12〜16歳の知識が一番頭

に入るときに、勉強をさせてくれなかつたことが、本当にくやしいと思っました。今、若い人は、音楽に、映画に好きなことをして、楽しい青春を送っています。戦時中になつたら、今言つたようになるんですよ。考え方も全部同じ方向にならされて……二十歳に近づいたら、競争のように、少年航空隊とかに入つて、飛行機に乗つたまま戦死するんです。

そういう世の中に、若い人を二度と巻き込またくないから、戦争だけは絶対反対です。若い人は政治に関心を持って考えてください。若い青春時代を一番大事に送って欲しいと思っますので。

私のお願いです。私の心からの気持ちです。戦争だけは絶対にやめましょう。」